には、地方自治体の支援が必要とされる。

(2) コミュニティスペース来場者特性調査

2月から調査開始予定。

(3) 行政・医療機関・NGOとの連携

行政・医療期間・NPOが連携することにより、今まで行政が実施できなかった時間帯に検査を実施することができ、また、今まで検査を受ける機会のなかったハイリスク層を検査につなぐことが示唆できた。

(4) 教育・相談機関との連携

今まで学校の中では、同性愛者や性同一性障害などに関してタブー視されてきたが、教育委員会の人権担当の部署と連携することにより、学校の理解が高まってきている。また、研究結果で述べた事例1のように学校の先生が生徒を連れてくることもあり、先生と顔のみえるつながりができている。

結論

MSM商業施設の非利用者を対象とした施設のニーズがあることはわかったが、情報の提供とメンタル面のサポートの両面を行なう必要がるため、個別相談が行なえる個室と相談スタッフが必要とされる。

また、的確に医療につなげるためには、本人の自己肯定感を高めることと、安心して検査を受けることができ、また陽性だったときには安心して医療につなげる必要がある。そのためには、施設だけの情報だけではなく、クライアントが安心して次の行動に移せることができる情報も伝えるきめ細かい対応が必要とされる。

コミュニティスペースは情報を伝えると共に、孤立している人達に情報を伝えるとともに、コミュニティにつなぐことで自己肯定感を高めることの役目と、行政・医療機関、教育機関、NPOのお互いが顔の見える関係を築くためのコアとなる2つの役目を持つことになる。

その2つの機能を維持するためには、継続的に安定して運営ができる場所とスタッフの確保と、行政・医療機関、教育機関と平日の昼間に連絡がとれる体制である必要がある。その維持はNPO独自の予算では難しく、自治体の支援が必要とされる。

健康危険情報

該当なし

知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究発表

1. 原著論文による発表

井戸田一朗、加藤康幸、畑寿太郎：都内診療所における男性性感染症患者のHIV陽性率、日本性感染症学雑誌 23:P.90-93、2012

井戸田一朗、星野慎二、沢田貴志、佐野貴子、上田敦久、加藤真吾、今井光信：コミュニティセンター「かながわレインボーセンターSHIP」の夜間HIV/STIs即日検査相談を受けたmen who have sex with menの特徴及び罹患率、日本公衆衛生雑誌 60(5):P253-261、2013

2. 口頭発表

井戸田一朗：MSMと性感染症。第26回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012年11月

井戸田一朗：HIV診療におけるアディクション。第26回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012年11月

井戸田一朗：都内一診療所における、MSMの年間HIV罹患率の推移。第26回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012年11月

井戸田一朗：民間クリニックにおける院内自発検査の推進。第26回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012年11月

星野慎二：セクシュアルマイノリティ支援とHIVエイズ。第26回日本エイズ学会学術集会・総会、横浜、2012年11月

添付資料 1

平成24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」

「神奈川県における検査と医療連携におけるNPOの役割に関する研究」班
第1回MSM連絡会議　議事録

研究分担者　井戸田　一朗（しらかば診療所）

1. 開催日時　平成24年　9月　4日（火）　18:30　～　20:30

2. 場　所　　〒221-0835　横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2　703会議室

3. 参加者　　16名（別紙リスト）

4. 報告事項

本研究の目的である、MSMの検査普及と陽性者を治療につなぐための体制づくりのためには、行政・医療機関・NGOが連携し、課題解決に向けて一丸となり取り組む必要がある。そのため、本年度からMSM連絡会議を発足することとなった。

第1回目は、現状の把握のために、以下の各委員から最近の感染者動向や医療機関におけるMSMの現状について報告をしていただき、MSM対策における課題について情報共有を行う。

① 全国の感染者動向

厚生労働省エイズ動向委員会委員 日高庸晴 先生より、全国のHIV/AIDSの発生動向及び、2011年-2012年のReach Onlineの結果の報告。

② 神奈川県内の検査実施状況とMSMの受検状況

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市

③拠点病院におけるMSMの現状

横浜市立市民病院 立川夏夫 先生

横浜市立大学附属病院 上田敦久 先生

しらかば診療所　井戸田一朗

④ MSM向け検査の実施報告

神奈川県HIV即日検査（MSM・外国人限定）……沢田貴志先生

川崎市ゲイ向けエイズ臨時検査

SHIPのHIV即日検査

今後は、四半期ごと（3ヶ月ごと）に本会議を開催することで、全員同意する。

（別紙 議事録詳細）

第1回 MSM連絡会議 議事録

1. 挨拶

(1) 分担研究者 しらかば診療所 井戸田より、本会議の目的（下記）を説明。

- 神奈川県との協働事業で培ってきた行政や各機関との連携を継続
- より大きなネットワークづくりを行い、HIV・エイズ患者の減少と性的マイノリティの理解を目指すこと

本会議が、「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」の分担研究「神奈川県における検査とNPOの役割に関する研究」の一環として今年度は実施される旨説明。

(2) 研究代表者：国立病院機構大阪医療センター 白阪琢磨先生より、挨拶。

大阪ではHIV/AIDSの発生数は増加しているが、神奈川ではそうではない。MSMを大事にし検査を届ける先進的な取り組みをしているためと考えられる。SHIP の存在意義は大きく、県との協働事業は続かなかったが、研究班として 1 年間預かることになった。MSMに特化した検査のモデルとして、自治体にその重要性を認識して頂き、今後の支援に取り組んで頂けるようお願いしたい。

2. 最近の感染者動向

2-1 全国の感染者動向

厚生労働省エイズ動向委員会委員 日高庸晴 先生より、全国のHIV/AIDSの発生動向及び、2011年-2012年のReach Onlineの結果の報告。

- 戦略研究の影響もあり、東京都や大阪の回答者におけるHIV検査受検率は上昇したが(50%台)、それ以外の地域は大きな変動は無く、神奈川県からの回答者では約42%。
- 神奈川県のHIV陽性率は、PCで6%、モバイルで4.5%。
- コンドームの常時使用率は全国とも30%台であり、調査開始10年間であまり変わっていない。→変わったのは、都会での検査受検行動のみ？
- 立川夏夫先生より、ACCの患者層と、横浜市立市民病院の患者層の違いについて意見あり。
  ACC：検査もするが、risk behavior もする。意図的で、自分で考えてアプローチする。
  横浜：のどかで普通で素直な患者層。
- これまでの診療経験から、MSMは一様ではなく、MSM社会への帰属意識は希薄である。
- HIV/AIDSの増加がそれほど見られていない神奈川モデルは、システム（SHIP、検査、地域連携）の他、それ以外の要素（患者層）も関係しているのでは。
- 不幸なことに、セックスドライブが強い人達が存在し、知識よりも生物的な要素によって、動いている人たちがHIVに感染している現状がある。
- MSMかどうかではなく、パートナーの数が問題では。

沢田貴志医師（港町診療所所長）より、セルフ・エスティームが低いとセックス・パートナーが増える傾向があり、SHIPが教育現場を含め各方面と連携を取っていることは意義があることを説明。

2-2 神奈川県内の検査実施状況とMSMの受検状況

(1) 神奈川県

2011年に約2,300名の受検者。1,176人は日曜検査。予約不要の即日検査のニーズが高い。予算の関係上夜間検査

を廃止せざるを得なくなり、2011年の検査数の低下は、夜間検査の数の低下がそのまま反映されている。

5-6%はMSMの受検者。

沢田医師より、県と港町診療所の共同で、4回/年、個別施策層である外国人とMSMを対象に、厚木におけるHIV/STIs即日検査事業について紹介。場所や広報不足などのハンディにも関わらず、ハイリスクな受検者が受検していることの報告。

(2) 横浜市

圧倒的に夜間検査のニーズが高い旨報告。

(3) 川崎市

日曜即日検査は1,000件/年の受検者。

(4) 相模原市

2011年の陽性例2名中、1名は女性、1名はMSM。相模原市内からの受検の他に、県域、東京都からの受検もある。

(5) 横須賀市

MSMの受検者は少ないが少しずつ増えている。リピーターが増えている。アンケートは異性間に丸をしていても、相談でMSMであることが判明することもある。

(6) 藤沢市

平成23年は450件の検査を実施し、男女比は6:4。陽性は1名のみ。この数年は、陽性者はMSM。2011年の陽性者は1名でMSM・2012年はバイセクシュアル1名。受検者は覚悟を決めて来ている印象。

他、即日検査で陽性となったのにも関わらず、確認検査を取りに来なかった人がいる問題、アンケートで空白もしくは異性愛としていながら、相談でMSMと判明するケースがあることについて共有された。

3. 拠点病院におけるMSMの現状

(1) 横浜市立市民病院 立川夏夫 先生

- 累計600人のHIV陽性者、現在200-300人が通院中。新規患者は20人/年。自分の周囲にHIV陽性者がいるという認識に乏しく、陽性と分かって途方にくれる例が目立つ。Basicな情報を持ちあわせていない。
- ハッテン場よりも出会い系の方が感染の場としては問題。
- ゲイやMSMであるというアイデンティティは持たず、気持ち良くなる手段として男性との性交渉を行う「なんちゃってMSM」もいる。

(2) 横浜市立大学附属病院 上田敦久 先生

過去4年間の新患の背景について発表。

(3) しらかば診療所 井戸田一朗

他の性感染症（梅毒など）との関連、患者数の推移について発表。患者の9%は神奈川県在住者。

4. MSM向け検査の実施報告

(1) 神奈川県HIV即日検査（MSM・外国人限定）‥‥ 神奈川県：前述

(2) 川崎市ゲイ向けエイズ臨時検査‥‥ 川崎市

鈴木氏より、2011年11-12月にSHIPへの委託事業として実施した、ゲイのためのエイズ・性感染症検査の事業報告。

星野氏より、広報（出会い系サイト）の方法について報告。井戸田より、検査項目及び検査枠組みについて報告。

(3) SHIPのHIV即日検査‥‥ SHIP

星野氏より、2008-2012年に施行したHIV/STIs検査相談の集計を発表。

5. 質疑応答およびフリーディスカッション

- 県より、MSM専用の検査場の方が望ましいのか？→星野氏より、様々な検査の選択肢があることが望ましい。両方あるべき。
- 沢田医師より、陽性者の過半数がMSMであり、諸外国では対策費用の1/2以上がMSM対策に分配されている現状で、日本でももっと強化すべきである。
- 岩田医師より、他にも業務を抱えている中、年間の中で何ができるか考えていきたい。
- 他、通院をドロップアウトしてしまう患者への対応

6. 連絡会議の体制（10分）

四半期ごと（3ヶ月ごと）に本会議を開催することで、全員同意